

日本GAP横浜支部報

oneness

No.2

Oneness No.2

進歩は幸福の道	清水 正	1
G A Pと出会って身近になった超能力	藤沢紀子	2
愛の惑星と呼ばれたい	元井武士	5
1 + 1 = 3 Positive Thinking (積極的な考え方)	梅原 勲	6
G A Pと出会って	外野浩司	7
全ての人が現人神	岸本 悟	7
火星は厚い大気層を持つ	清水 正	8
学びのプロセス	杉山敏樹	10
透視実験		12
第一回日本G A P横浜支部大会 (予告)		14
おしらせ、編集後記		15

表紙の写真はティカール (グアテマラ) のU F O
1993年8月18日撮映



進歩は幸福の道



清水 正

どうすれば幸福になれるのでしょうか？
私たちはそれを捜しています。

しかし、幸福とはどんなことかを人間は何処かで知っているようにも思います。それでも幸福を目ざす先に必ずしもうまくいかない出来事があるのはなぜでしょうか？

また、幸福は人によって様々な捕え方があり、その価値感にも左右されます。地球全体の人々を見る限り、すべてが幸福を見出ししていないようです。

幸福は精神的に満たされた気持ちであり、それは調和、愛、喜び、活動といったもので充実していることでしょう。

ここで面白い調査結果があります。人間の想念が体に及ぼす影響ですが、想念の一つのあり方によって得られる健康についてです。

人間は自分の想念の中で好きな想念を選ぶことができます。その中で、明るく楽しく元気という想念を選んでみましょう。するとどうでしょうか、表情が明

るく笑いがでて、元気に活動するようになります。そして、体は健康に若々しくなります。

笑いは体にある種の良い影響を与えていることが最近笑いは医学的にも健康に良いということでもわかってきました。

一昨年の五月二十五日付の読売新聞では「笑いは健康の源、科学で証明」という記事が載っています。心と体の関係を研究している医師らが寄席に來た人を対象に体の抵抗力を示す免疫能を調べたところ、開演前に比べ大笑いした後の方がはるかにアップすることがわかり、「病は氣から」の諺を科学的に実証したものです。

測定したのは岡山県倉敷市の柴田病院の医師で、五年前にガン患者のモンブラン登頂で話題を呼んだ「生きがい療法実践会」（会員千五百名）を指導している伊丹仁朗医師です。三年前、ガンや難病患者らが身近な出来事から笑い話を作り、周りの人に話して一緒に笑うユーモア・スピーチという笑い療法を取り入れ、闘病意欲が高まるなど効果を上げています。そういえばアダムスキーは母船内での質疑応答で金星人カルナから次のようなことを聞いていました。「他の惑星に住む私たちは悲しい人々ではありません。私たちはたいそう陽気です。とてもよく笑うのです」。

「プリベンションマガジン」編集の「薬と治療辞典」によれば、明るい陽気な環境が患者の抵抗力を高め治療率の向上につながり、被験者に楽しい映画を観せた時、血液中の免疫細胞は活性化し、免

疫作用を抑制するホルモンが明らかに減少する事実を確認しています。

今地球上で戦争などの争いことが絶えないのは、私たちの価値基準が合理的な結果の蓄積こそが幸福であると信じてきたからかもしれません。そこにはムダな物は省かれ不必要と思うものは存在の意義を考えずに切り捨ててしまっています。例えば今のままゴミを出し続けて私たちは地球の自然との調和を果たすことはできません。

本来の価値は全体を必要と認める原因の世界にあり、特に私たちの想念を調和的に保つことではないでしょうか。そして、宇宙的想念とはどのようなものであるかをいつも考える環境が大切となってきます。想念のありように注意を払う世界になった時、世界は変わるでしょう。どのような宗教に属しよう、その基本は偉大な創造主を讃え、そのための教えがなされています。

民族は自己の拠り所を確たるものとする証しであり、誇りであることでしょう。その中にある他を必要とすること、なぜ必要なのかを自己の想念を分析しながら調和して考えていく、という思いがあります。一つの基準でしかない多様なあり方を認め、それが全体で調和していることを知る必要があります。

幸福は全体の活動のプロセスの中にあるように思います。ここで忘れてならないのは転生の問題です。

一人の人間はその生涯をいつか終えなければなりません。その中で役割りを演じ続けて次の世代へ引き継がれていきま

す。そして生まれ変わり。前生とは違う生活環境と肉体を与えられて次の世代に育てられます。その繰返しの中で今の自分のあり方が見えてくるでしょう。

転生が認められた時、社会のシステムも合理性と競争から尊敬と調和へと変わってきます。社会や個人の発展は現在生きて活動している人が将来に負債を残さない形で次の世代への敬意を現わす社会になると思います。

人々はお互いが常にかかわりあって必要な存在であり、全体の中で欠くことのできない大切な一部であることを知ることができます。社会活動を見ると、各自が受け持つ仕事がかかればかかわりあって助けあっています。

ビルを建てるのにも溝を掘る人から彩色を施す芸術家、そして道具を作る人や運ぶ人。多くの人が一つの目的に向かって集合します。この社会は多くの才能と考の集合で成り立っています。

第二惑星からの地球訪問者（中央アト出版社）の中でマスタが幸福について次のように述べていました。「地球で私たちは「幸福の道」という言葉を何度も聞きましたが、これは良い言葉です。進歩とは幸福なのであって、その始まりから上方へとずっと敷かれているからです。そして他人の努力が自分の努力とは異なる性質のものであるにしても、その他人の努力に対して、幸福は人々を寛容の心をもつ兄弟にするのです」。

私たちはこれからも幸福を求めて行くでしょう。それは、進歩の道に乗って活動している時、いつでもやってきます。

GAPと出会って 身近になった超能力

藤沢 紀子

この記事は一九九三年六月六日に行なわれました、日本GAP東京本部月例セミナーにおける体験講演をそのまま文章化したものです。

病気の奇跡的な治癒によって、超能力の存在が身近にあることを実感させる内容であり、一連の出来事からアダムスキー問題に関心を抱くようになってゆく過程が述べられています。(掲載許可済)

どうもこんにちは。ただいま紹介に預かりました藤沢です。

私がGAPを知るきっかけはちょっと変わってまして、一昨年の春に主人が病気で倒れまして、かなりの重病だったんですけれども、秋山真人氏という最近テレビや雑誌等によくお出になつてらっしゃいます、超能力者の方に遠隔治療をしていただくことによって助かったのが縁なわけなんですけれども、その話からまず始めたいと思います。

奇跡が起こる

一昨年の春に、元氣だった主人がいきなりかなり血を吐いて倒れてしまったんです。それであわてて車で病院に連れていきまして、検査検査とやっていたんです。ただの胃潰瘍かなって軽く考えてすぐに退院できるんじゃないかなあと思つてたんですけれども、検査が進みましたら、腫瘍が悪性のものだということがわかりまして、それでも最初のうちは希望がありまして、手術さえしてしまえば助かるんだと思つてたんです。

そうですね、段々検査を繰返しているうちに、体じゅうに転移が広がつてしまつて、手術が不可能な状態になつてるんじゃないかってお医者様から告げられてしまつたんです。

それでものすごくショックを受けまして、もう死んでしまふんじゃないかと思ひまして、病院で死なせるのはやだなあと考えて、いろいろターミナルケアですとか、自宅治療の方法も考えていたんです。

そんな矢先に主人の実家にいます、お兄さんの方が久保田先生から秋山氏とい

う方を紹介していただくので絶対に助かるからあきらめないで頑張るんだつていうふうに言われました。

最初の頃は、超能力とかそういうのは全くないわけではないと思つてましたけれども、そんな事で助かるわけじゃないじゃないかなあと思つてましたし、主人は超能力ですとかオカルトですとか、そういう事一切嫌いな人なので、そんなの絶対に関係ないと思つてました。

手術日が決まりまして、大学病院の方に移つて、また検査づけになりました、何度までも検査を重ねてましたら、秋山先生にお願ひした次の日か、まあ少し時間がたつた頃だったと思うんですけれども、いきなり先生のお話が変わりまして、もう開けてもしようがない状態だから手術できないかもと言われていたのがいきなり転移がほとんど無くなつていますつていう事を言われました。

お医者様の方はただ単純な検査のまじがいであらうというお話だったんですけれども、私にとつてはそれはすごく印象的な事でした。もしかしたらそういう方

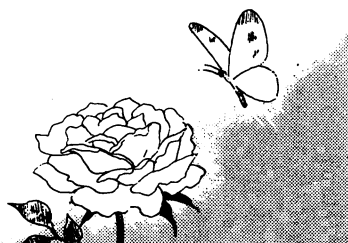
が本当にあるのかもしれないと思ひました。

絶対にあきらめない

それからはもうアダムスキー哲学の方にすごく傾いていきまして、病院で主人が入院している間じゅうもGAPの事が気になって気になつてしょうがなくなつたわけです。

たまたま見せていただいたUコンという雑誌の中に春川正一氏という方の素晴らしい遠隔治療のお話がでてまして、春川正一さんという方がやはりGAPの会員の方の奥様で、ものすごい重病の方を遠隔治療で直したという内容だったんですね。それをすごくいい内容だつたので、この方に頼めば絶対に助かるなあと思ひました。

最初の頃に秋山さんという方はあまり存知ませんでしたので、秋山さんよりも春川さんという方にお願ひしたいなあと思つたんですが、ここにいらつしやる方ほとんどの方が御存知だと思ふんです



れども、あの春川正一氏というのは、実は秋山さんが有名になる前の久保田先生が考えたペンネームだそうだったんですが、それを後日GAPの会員になってから知った時には、もうなんだか心の底からうれしくなったのを覚えています。

それで例えば助からないと言われる病気に加かった時にお医者様はあと何ヶ月位で亡くなるかもしれないという悪い予測、まあ、最悪の事態を考えて下さいという意味でしょうか、いつ頃までに亡くなりますという形の話をされるんですけども、アダムスキーさんや久保田先生や秋山先生のことなどを知ってからは、絶対にあきらめないということを学んだような気がします。

それからは主人の方がどんなに最悪の事態になった時にも必ず助かるんだって強い信念が心の中にわき起こりまして、結局開けてみたらそれほど体の中に癌が広がってませんで、だいたい手術で切り取ることができました。

その後無事に、三ヶ月位の入院だったんですけども退院しまして、もう現在で三年目に入るんですけども元気で暮らしています。

余談なんですけれども、その主人の会社が退院した翌年ですから、去年の春に倒産しまして、不幸は重なるものだなあと思ったりしたんですけども、今は自分で会社を起こしまして、小さな会社ですけれども社長になりまして、生がいを持っていていけるようなのでそれを私はそばで助けていきたいと思っています。

身近になった超能力

そのような事がきっかけで、入院中に私はアダムスキー全集の十巻をむさぼるように読みまして、その中でも生命の科学にはものすごく共感を受けました。ああこんな本があったんだ。素晴らしい事が書いてあるんだなって思いました。今までは絶対に特殊な人にしか起こせないことだ。絶対に選ばれた人にしか起こない力なんだって思っていた超能力がものすごく身近な所にあるなということになりました。

それから主人の体が良くなってきましたから、初めてGAPに参加した時の経験なんですけれども、その頃は超能力練習の時間に遠藤さんというオーラ透視ができる方が前に出まして、いろいろと図形を当てたりすとかしたんですけども、その時の印象的な話を二点程したいと思います。



初めてGAPに参加した時には実は遅刻をしてまいりまして、もう三〇分以上時間が過ぎてから一番後の席にこそっと座ったような感じだったんです。もう皆さんすごく真剣に聞いてらっしゃって、へたな大学の講義とかよりもずっと静かなんだなって感じました。

遠藤さんの時間になって、遠藤さんが出てまいりました。右側の方から遠藤氏が出てこられたら、不思議なことに頭の上に三角形に光る図形が見えるんですね。ハッキリそれが見えまして、不思議な方だなあと思って、何か帽子みたいにどうして三角形の光がついてるんだろうなところう思ったわけです。

そしたら超能力練習が始まりまして、今から私が図形を送りますから当てて下さいと言われた時に、ためらうことなく三角形をかぶって来た方だから三角形を書こうと思って書きましたら、見事にそれが、その形だけは当りました。

その後、その時の練習で「私がこれから異人さんを思いますから、その方の名前を当てて下さい」と言われたんですね。もう異人さんなんてたいして名前も知らないし、これも絶対に当たらないだろうなって思ってたんですが、なぜだか急に頭の中に「エジソン」と名前が閃いてしまったんです。

そんな事普段はないんですけども閃きまして、遠藤さんが「それではこれから僕が想念を送りますから」って言われた途端に、今度は名前だけでなくて科学者だって印象がハッキリ来てしまったんです。不思議だなあと思ってたんです。

けれども、その筈もたまたまエジソンだったんですね。

テレパシーなんていうのは、本当に超能力者の方たちだけにしかないものなんだなって思ってたんですけども、本当は私のような者でも心が素直に開けている時には簡単に飛び込んで来るものなんだなっていうのが、その一回目GAP講演でハッキリわかりました。

不思議な物体を見る

私はここで体験講演をされる皆さんのように、UFOを見たりとか、ハッキリとした不思議な体験はないんですけども、一度だけですね、中学生の頃にちょっと不思議な物を見ましたので、その話をもう少し……。

夜中の事なんですけれども、目を覚ましたら、部屋の中に、そうすね直径一五センチメートル位の半透明のガラス状の小鳥位の大きさなんですけれども、小鳥のような形をした丸味のある物が浮いてまして、なんだかわからないんですけども、奇麗だなあと思って見てましたら、そばまでスーッとそれが来まして、頭の上で何かグルグル回ってたんですね。それは今だになんかよくわからないんですけども、回わってましてハッて気がついたらもう見えなくなっていました。

超能力の応用と実践

あと最近、現在の私のアダムスキーさ

んを知ってからの超能力体験らしいお話を申し上げますと、普段は主人と私は両方とも働きに出ていまして外出がちなもので、宅配便とかがなかなか届かなかったりするんです。

休みの日に宅配便が届くから家に居ると主人に言われまして、ペランダとか外に洗濯物を出したりしてしまうとチャイムが聞こえなくなりますよね。いつ来るのかないつ来るのかないやだな早く来ないかななんて思ってたんですけども、そうだ！こんな時こそアダムスキーだと思いついて、心を落ち着けて、何時に来るのか感じ取ってみればわかるかもしれないと思っただけです。

その時も落ち着いて何時かなって思ったら、一時二〇分だよって声じゃないんですけれども頭の中に閃くんですね。一時二〇分だよって思っただけですけども、それでもちょっとソワソワしつつ待っていましたら、ピンポンってなりまして、本当に時計を見たらその時間ピッタリだった事が一回ありまして、あんなほどこいうふうに超能力は使えるなっと思っただけです。

あとGAPの中で売られているESPカードなんですけど、現在、新型が出まして、その前の一つ古いタイプの物で緑色の箱に入ったカードをお持ちの方がいらっしやと思うんですが、あれで練習していましたら、ある日を境に全部見えるようになったんです。

ただちょっと特殊な見方なんですけれども、皆さんも持っている方がいらっしやったらお家のためにいたきたいん

ですが、特に太陽でも蛍光灯でもいいんですけれども、カードを持って光をそのカードに当てて反射した光が目に入るようにすると形が浮かび上がって見やすいと思います。

それで、カードが全部見えるようになりまして面白いくに超能力は絶対ではないと、まあ絶対とは言わないんですが、ほとんどないだろうと言っている主人にも、お前が見えるんなら俺にも見えるはずだということで主人もカードがほとんど見えるようになってしまいました。

あとそうですね効果的な練習法だと思うのを一つあげたいんですけども、御家族のいる方だったらちよいどいいと思うんですけども、夜寝る前とかにテレパシ―実験の簡単なものができます。相手の方に何でもいいですから形とか物でも、犬とか猫とか何でもいいんですけども、形を強く思ってもらいます。寝る前とかのリラックスしている時ですと、かなりの確率でスーッとこう入って来て形を見る練習になると思います。これは是非ためしていただきたいと思います。

すべてに原因がある

こうした体験を通して、私は今真剣にというか、アダムスキーさんはとにかく偉大な方だなんて思ってますし、こうしてGAPの会に入れたということも幸運だったことだなんて思ってます。

今までの人生、まだ短いんですけども生きてきまして、いろんな事が偶然起こるんだなって思ってたことが実は色々と原



因があって起こることだなんていうのがだんだんわかってきました。

例えば自分が病気ににかかってしまったりしたら、不幸だなんて思いますが、何で自分だけがこんな目になってやっぱ思うと思うんですね。でも本当はやっぱりそうじゃないはずなんです。その病気になるのにも原因があるわけですし、私たちの体っていうのは本来健康で生々と動けるように造られていると思います。です

から、主人の病気を通しまして、私は色々なことを学べて、ちょっと痛い思いをして主人はかわいそうだったんですけども、私にはすごくプラスの経験になったような気がします。

本当に今までっていうのは超能力っていうのは身近にはないもので、特殊な人だけが起こせる不思議な現象だっていう思いが強かったんですけども、こちらの会とかを通して、そんな事は絶対ないし、今ここに來てる皆さんの中にも素晴らしい力が絶対にあるはずだって強く思います。

そういった力を今使う機会がすごく減ってきてしまっているし、もしかりにそういう力が出たとしても、いつものように偶然だっていうことで、ただ通り過ぎてしまうような毎日だと思ってしまうんですけども、本気でそういったものを探求してみようと思う方には絶対に現われると思います。特別な人だけじゃなくて、私たちでも簡単に使える力で、とても便利な面もありますし、もしも本当に使えるようになりまして、色んな人の役にも立つと思います。

私がとても強く超能力に興味を持ったのは病気を直すことができるということからなんですけども、本当に例えばここに居る方が隣にいる自分の御家族ですとか、もしどっかが痛い時とかにそれを軽くしてあげることとかができれば、本当に素晴らしいことだと思えますので皆さんも本当に頑張ってください。

短いけれどもこれで体験講演を終わらせていたきたいと思います。

愛の惑星と 呼ばれたい

元井 武士

米ソの冷戦が終わって、一時はこのまま平和な世界が訪れるかにも見えました。しかし現実はどうとあちらこちらで民族紛争や宗教対立による争いが激化し、あいかわらず地球上では無益で悲惨な戦争が続けられています。いったい地球人類はあとどれだけ血を流し続け、自らを傷つけばその愚かしさに気づくのでしょうか？ 地球人とは「血求人」と書いたほうが良いほどです。

しかし、そんな愚行を繰り返して人類に対し決してあきらめずに宇宙の法則を伝えようと奉仕して下さる高貴な生命もまた宇宙に存在しています。彼らの存在がなかったら地球文明はどんなに絶望的であったでしょう。古くはイエスが「愛」を説き地球人類にとってもっとも必要な法則を伝えようとした。だが、「結果しか見ないで行動する習慣の地球人類はイエスの教えを十分に理解できずじまいに終わり、「結果を分析する科学」だけを発達させました。「結果」の分析にかけてはかなり進歩している地球人ですが、しかしここへきて「結果」優先の文明もそろそろ限界のようです。なぜなら、科学技術は自然と調和がとれずに自然を痛めてしまいオゾンホールが存在は今や人類の脅威となっています。また、食量生産は向上しているのに大量の餓死者は出ているし、医学が進歩しても病人はさっぱり減らないことなどを見れば一目瞭然だと思われるからです。

地球人類はこの「結果の部屋」から出ることができるようか。その扉を開く鍵は何でしょうか？ そのキーは「

愛』であると思います。アダムスキーの宇宙哲学も『愛の哲学』であるように思えます。私は20才代のある時に「愛」について考えてみたことがあり、そのままアダムスキー哲学につながっていききました。「愛」について考えるとき、「自己を理解する」ことを避けて通れません。「第2惑星からの地球訪問者」の中で金星人のマスターは金星人と地球人とが非常に違っている点として、「自分とは何か」の理解であるとアダムスキーに語っています。

「愛の力」は宇宙で最大の力だといわれています。それは「原因の世界」に働きかけることができ、「結果」を創造するからでしょう。日頃、恐怖に支配され

ている人間もわが子を救うためには進んで命を投げ出すように、人は愛することによって恐怖心を克服してしまいます。他を愛する人は「創造主」と一体化しているのでも恐怖心を克服できるのでしょうか。植物ですら人の愛の波動をキャッチし成長を早めたりして応えます。私たちはもっともこの創造主からいただいた「愛の能力」を万物に向け使うべきでしょう。「愛する能力」を高めなければ、私たちは自然と調和できないし、スペースビールの仲間入りはできないでしょう。アダムスキー哲学で愛せる人間となり、まず日本を「愛の国」にしましょう。そして、いつか地球が他の惑星人から「愛の星」と呼ばれるようになるために！



1 + 1 = 3

Positive Thinking (積極的な考え方)

梅 原 勲

私がアダムスキーのScience of Life Study Course (生命の科学) を原文の英語ではじめて読んだのは約一年前です。日本語の翻訳を読んでいたときには気がつかなかったのですが、英語を読んだときに気になったところがありました。

第三章でアダムスキーは Positive Thinking, that you may have heard about, has hurt more people than it did good.

と言っています。これを日本語に訳すと、「積極的な考え方は、皆さんはこのことをお聞きになったことがあるかも知れませんが、良いことをもたらすよりもむしろより多くの人々を傷つけてきました。」となります。(＊1)

そのときまで私は積極的な考え方はうまく働くと思っていた。N・V・ピールやマーフィー博士の積極的な考え方はすばらしいと私自身は思っていましたし、それとは違うことを言った人には出会ったことはありませんでした。ですからアダムスキーは私の知っている「積極的な考え方」とは違うことを言っているのではないかと思ったり、ミスプリントではないかとも思いました。でも何回も読み返してゆくと、そうではないことが明白でした。しかもアダムスキーはわざわざ念を押すように「皆さんもこのことをお聞きになったことがあるかも知れませんが」と言っています。彼は確かに「積極的な考え方」はうまく働かないと言っているのです。

「いわゆる積極的な考え方」とは一言で言うところなんでしょうか。いろいろな解釈があるでしょうが、私の理解し



ているのは、何があっても物事の良い面だけ見て、必ずできると信じ、疑いが起こるとすぐにそれを打ち消すようにするということです。また久保田先生のおっしゃられている「ミラクル・ワード」や「ミラクル・イメージ」も「積極的な考え方」の一つの形と私には見えます。

なぜ「積極的な考え方」はうまく働かないとアダムスキーは言うのでしょうか？ 実際にはそうなのでしょうか？ それにしては「積極的な考え方」でうまくいったという話を良く聞きます。ではうまく行

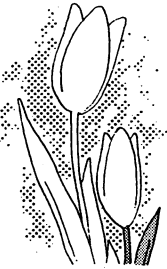
かなかった例は何でしょうか？ 一年間のあいだずっと私はこの疑問を育んできました。そして最近アダムスキーの言っていることが見えてきました。

「積極的な考え方」のうまく働かなかった例として旧日本軍国主義があげられます。昭和十年代「日本は神の国であり、絶対負けることはない。勝つと信じろ」とミラクル・ワードやミラクル・イメージをふんだんに国家的なレベルで押し進めながら、戦争に突入してゆきました。その当時「戦争に負けるかもしれない」となど非積極的なことを言う「非国民」のレッテルをはられ、罰せられました。確かに太平洋戦争の初期には日本軍は勝っており、「積極的な考え方」がうまく働いているようでした。しかしその後の過程はみなさんのご存知の通りです。原爆による被害者を初めとして数知れないほど多くの人々を傷つけたのがこの軍国主義のとった「積極的な考え方」だと私は言います。

注：

＊1 Positiveとは肯定的という意味です。Positive Thinking は「肯定的な考え方」が文字どおりの意味ですが、日本では「積極的な考え方」というのが定着していますのでこのように訳しました。(久保田先生の訳では「陽性の独断的な考え方」は、好結果をもたらさないでむしろ多数の人を傷つけます。」となっています。中央アート出版社、新アダムスキー全集3「21世紀／生命の科学」49ページ)

GAPと 出会って



外野 浩司

私とGAPの出会い、実家（伊勢原）の押入れから始まります。それは三年半ほど前の夏休みに実家に帰っていて、ふと押入れに山積されている本の山の中に、何か興味のひかれる本があったのです。それが久保田先生の書かれた「宇宙からの訪問者」（ユニバース出版）だったのです。表紙のアダムスキー型円盤の写真から受けるインパクトもさることながら、本の内容から受ける印象が、何とも言えない新鮮さがあり、二三日で一気に読んでしまいました。しかし、当時疑い深く想念も荒かった私は、半信半疑な気持ちでした。でも、ほんとうの事ならとて、もすばらしい事だ……。それから、

UFO関係の本をかたっぱしから読み始めました。しかし、その多くが、宇宙人侵略説や世紀末的な印象を与える物ばかりで、何とも空しい気持ちになったものでした。

そんなある時、逗子駅前の本屋さんに「UFO CONTACTEE誌」に出会ったのです。表紙のすばらしさにひかれて、ろくに中身も見ずに買ってしまいました。それから、次号も逗子の駅前の本屋さんで買った時に、定期購読することになりました。（つまり、GAP会員になった。）そして、「Uコン」や「アダムスキー全集」、又、「異星訪問奇談」等の本を取り寄せ、約一年間かけて読みました。そうこうしているうちに、月例会に出てみたくなり、昨年の一月より横浜支部の月例会に参加するようになりました。

それから現在に至っているわけですが、その間、様々な人と出会い、いろいろな事を学ばせていただき、ほんとうにありがたく思っています。又、至らない点も多々あり、皆様に御迷惑をおかけした事もあったと思いますが、お詫び申し上げます。

私はまだ小さいころ、子供ながらによく、この世界の人々がみんな仲良く、又貧困の差がなく暮せたらよいのになあと強く思っていた時期がありました。やがて、大きくなり学校を出て、社会人となり働く様になると、その思いが徐々に薄らいではきましたが、いつも心の片隅には残っていました。しかし、現状の社会は厳しい競争原理の上に成立っている資

本主義の世の中です。自分一人の力などたかが知れている……。なあって思ってしまうがちです。しかし、このような状況でも自分を見失うことなく、本来、自分が持っているものを見つめていくことが大事ではないかと思えます。そうした意味において、「宇宙の意識」に目覚めて、己れの想念を良くしていく行動が必

全ての人が現人神

岸本 悟

以前、他の支部報に書かせていただいたものの、アレنج・バージョンになっってしまうのですが、もし、それを読まれた方がいましたら、この場だけ知らなかつた事にしていただきまして、ここに再び書きたいと思えます。

それはウィ・アー・ザ・ワールドが世界的に流れていた頃だったと思いますが、夢の中で、ある女の人が出てきたのですが、その人には大変申し訳ないのですが、私自身の勝手な印象として、その人は今生でもう終りなのだと感じられるような人だったのですが、その人の母親が亡くなったという事で涙を流し大変悲しんでいる顔がアップで見えた訳です。私はその嘆き悲しんでいる様を見て、例えば転生するとすると、悲しいかもしれないで

要だと痛感します。そして、自分の周囲に良い想念が送れるようになれば一年先、五年先、十年先、五十年先いや百年先、地球は真の意味で住み良い世界になることでしよう。そうなるように、地道な努力をしていきたいと思えます。横浜支部のみなさんこれからもよろしく願います。

すが、どこかに移ってこれから新しい人生を歩むのだなあと、自分を慰める事もできる訳ですが、その人のように転生を知らなかった場合、「死」滅亡」という事になる訳ですから、大変辛く、悲しい事のように感じられると思えます。そして、その時にその人の思いを私は痛い程に感じ取りまして、その人に対してがんばって下さいと祝福の想念を送っていました。

まあ、人間というものは、（特に地球人は）マインドに振り回されている分、現象的には様々な困難に直面すると思いますが、その内奥には私と同じ暖かい血が流れ誰かを愛し誰かに愛されている実体な訳ですから、どんなに悪人のように見える人に対してでも愛ある態度で接していった方がよいのではないかと思います。

火星は厚い大気層を持つ

清水 正

六ヘクトパスカル。この気圧は地球の三四キロメートル上空の気圧と同じである。地球の一気圧一〇一六ヘクトパスカルに比べていかにも低く、この値が火星に到着したバイキング着陸船からの観測結果であった。

それにしても、この値にして火星表面でさかんに観察される気象現象は何を物語るのだろうか？

気象現象については後に回すとして、まず、NASAが火星に送ったバイキングが火星に到着するまでには、火星に着陸するためのあらゆるデータを事前に知らなければならぬ。それは着陸に際してバイキング着陸船自体の重量、火星の重力、そして火星の大気圧と気象、地形を知らなければ着陸を試みることはできないのではないかとこのことだ。そうでなければ着陸のためのパラシュートをどれ位の大きさにし、どの高度でそれを開くのか、そして、どの位置で切り離し、どの時点で逆噴射して安全に着陸するのかを設定することができない。そのようなことは注目されずに、ともかく着陸は成功して六ヘクトパスカルであると発表されたのである。

火星着陸

着陸船は宇宙船が火星大気中に高速で突入するときの強烈な熱から守られるために、飛行シェルと呼ばれる防護カプセルの中に入れられていた。降下し着陸する間、着陸船は中継基地として働く周回船と電波交信を続けるのである。飛行

シェルに働く大気摩擦は、火星表面から約六四〇〇メートルでパラシュートが使えるほどゆっくり動くようになるまで着陸船を減速させる。それから飛行シェルは捨てられパラシュートが表面から約一・六メートルになるまで減速し続ける。次に、着陸船の三つのエンジンが点火しパラシュートは捨てられて一三分以内火星に降り立つのである。

一九七六年七月二〇日午前一時一五分周回船が楕円軌道の最高点付近を通過したときに着陸船は切り離され、ゆっくりと表面への長い降下の旅を始めた。着陸船は加速され、約三時間後に飛行シェルで防護されたまま高速で火星大気に入した。約二三・五キロメートルの高度である。飛行シェルは表面が加熱され、一枚一枚焼えはがされ、減速していった。七分間で減速され、表面から五九・〇メートルでパラシュートを開き飛行シェルを投下した。着陸は太平洋時間午前五時一分。これは地球が受信した時間である。着陸船が地球に到着した時間である。(エリック・バージェス、火星のすべり)

このような着陸がなされ、パラシュートの使用がなされていたという事実から火星の大気圧が六ヘクトパスカルであるとはそれでもないのだろうか？ NASAは着陸以前に火星への着陸に支障がないほどの情報を知っていたことに注目しなければならぬ。そして、火星に到着した着陸船はただ砂漠の風景を送り、ハッキリ結論のでない生物実験で地球に住む私たちの夢をこわすものだけだった

のだろうか？

私たちが着陸船の情報に目をうばわれている間、周回船はさかんに火星表面の地形を撮っていた。二つの同じカメラでおのおのは高倍率望遠鏡、フィルタ、テレビカメラ筒でできていて、一五〇〇キロメートルの高度からスタジアムくらいの大きさのあるものなら何でもハッキリ撮ることができた。マリナー計画における解像度を越えてNASAは火星についての鮮明な画像を手にするのできたのである。

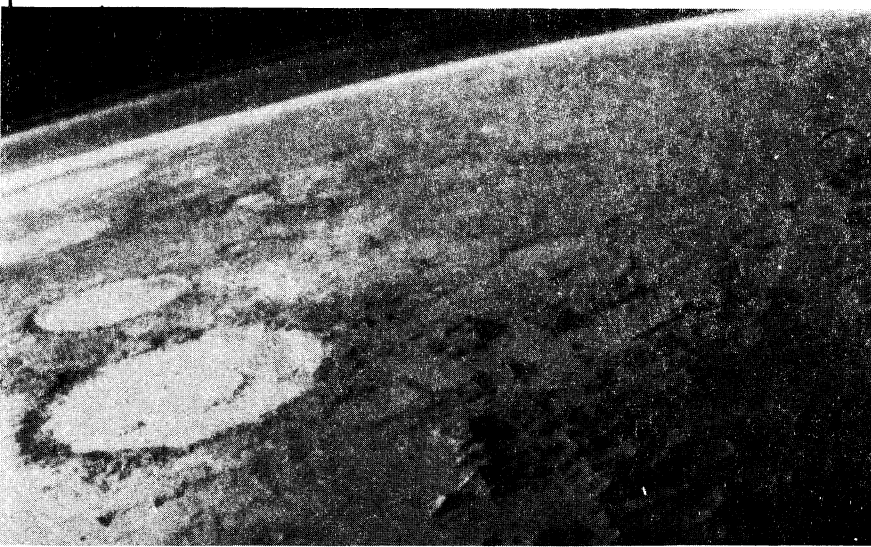
この火星上空からの撮映によって奇妙な事実が浮き彫りにされた。それは火星表面に着陸した着陸船のデータとは異なる興味深いものであった。

マリナー計画による火星表面の撮影や望遠鏡での観測でも知られていることであつたが、火星は雲の多い惑星であることがよりはっきりしてきた。

この気象現象について、六ヘクトパスカルで起こりうるものであるのかは読者に考えてほしい。雲が起るのには空気の対流がなければならぬ。対流が起るには地域による温度変化があり、充分な水蒸気はもちろんのこと、太陽エネルギーが届いていることを示す。そして大気圧が高くなければ起こりえないのではないだろうか？

火星の雲

火星には少なくとも二つの型の水の雲がある。朝と夕方の雲は昼と夜に起因する表面のもやであり、地球の低地平原で



しばしば見られる朝もやに似たものであろう。他の雲は一团の空氣が上方へ運動し、低温で凝結の起こる高さに達することに起因する。これらの雲は一日ごとに火山の側面に見られるのである。

水の結晶は一日の遅い時刻に空氣中の塵粒の上に形成され、火星の表面に降って一晩中氷として残るだろうと示唆した。日の出の後で温度が上がる時、この氷と塵は水が水蒸気に蒸発する前に液体段階を通過する。火星のある緯度においては二、三時間続く表面の湿った段階が毎日

存在するだろう。

バイキングは全体的な水蒸氣の分布図を作成した。中緯度地方では水蒸氣の変化はでたらめであった。ある地域では夜明けから日没まで減少し、他の地域では日中ゆっくりとした増加が見られた。また他の地域では日中の変化を示さなかった。このでたらめな性質は雲の存在によるのかもしなかった。一般に火星の高地は低地よりも水蒸氣が少なかった。そして、水蒸氣は北緯七〇度から八〇度で火星を取り巻く帯の中にもっとも豊富であった。火星の大氣中では湿度は概して高く低温ではめいっばい水蒸氣を含んでいる。火星は雲の多い惑星であり、多様な型の雲が確認されている。

火星の南半球よりも北半球の方によく見られるもやは、一面の濃い凝結であり小さな塵の粒子への凝結によるものかもしれない。また、約一〇キロメートルの波模様を示すこともある。

拡散した白い雲が時々一面に広がったもやの中に見えることがある。それはすみれ色でより明るく見え、もやの粒子よりも小さな粒子なのであろう。何時間何日間も衰えないことが多年にわたり望遠鏡で観測されてきた。それらは早く動いているようには見えないのである。

表面の模様に関係した大きな雲の系は、山の多い地域、とりわけタルシス高原および火山と関連している。これらの雲は午前中は拡散した塊のように見え、もっと複雑な構造に発展する。地球から何十年にも渡って観測されてきており、W型にくっきり見えることもある。それらは

典型的な山岳雲のように見える。山岳雲は地球上では大氣の塊がゆっくりと動くにつれて上昇し、水分がより湿度の低い高所で凝結したときに形成される。それらの雲のいくつかは、ほとんど火山の頂上まで、すなわち火星の平均表面上二〇キロメートルまで上昇する。

群をなして時々毎秒六〇メートルもの早さで移動するきれぎれの小雲からなる対流性の雲もある。これは午前中に表面近くで加熱されて、上昇した大氣のガスによるものと思われる。膨張による冷却が水分を凝縮させ雲を形成するのである。赤道地方では正午頃、五キロメートルかその程度の高度にしばしば表われる。

火星の波型の雲は最初マリナー九号によって観測された。それらは強い風が嶺やクレターの壁のような妨害物を横切つて吹くときに形成され、風の動きに妨害物があるときに形成される波頭に表われる。この波形の雲は火星の風の流れの研究に極めて価値があり、風のパターンが地球の同じ緯度のものと非常によく似ている。しかし、火星の風は同じような緯度ではずっと早く動いている。

クレターや水路の底にある明るい斑点はバイキングによる驚くべき発見であった。朝の太陽が地面の霜を冷たい空氣中で霧に凝縮する水蒸氣へと変えるのである。これは水分が火星の表面と大氣との間で毎日交換されつつあることを示しているの驚くべき発見であった。

一九六四年の宇宙船による最初の火星の写真上に発見されたものに、分離した雲の層がある。一番高いものは四〇キロ

メートルあり、さらに高いものもある。(エリック・パージェス「火星のすべて」)(別冊サイエンス「惑星の素顔」一九七三年三月二〇日号)

我々はあの一九七六年バイキング着陸をどれほどエキサイティングに見守ったことだろう。次々と発表されるニュースに生命の存在を見いだせる映像を期待した。火星人類の存在を感じながら次のニュースに期待した。

中には回りの岩とは明らかに異なる直方体の岩が確認された。又あるいは、一瞬動く物体が撮られ、わずかな黒い影が認められた。

先頃、マース・オブザーバーが火星の軌道に乗ろうとした時に通信がとれたという。NASAが十億ドルの予算と十数年の準備を重ねた計画がまた秘密のベールの中に隠れてしまうのだろうか？ 本当に通信はとれたのかこれまでのNASAの対応からして信じられないのは私だけだろうか。一方では火星は大氣は希薄で二酸化炭素が主成分であり地表は太陽からの有害な紫外線が降りそそぎ生物が生存できる環境にはないと述べ、そしてバイキングの着陸船は高地であり水蒸氣の少ない砂漠に着陸して生物実験を行なっているのである。

しかし、極地には季節によって増減を繰り返す水河があり水蒸氣雲は各地域に見いだされている。

また、四季の変化に従って黒い地域の移動と色あいの変化が確認されている。これは砂嵐による砂の移動であるといわれるが、はたしてその通りなのだろうか。

学びのプロセス

杉山 敏樹

①はじめに

人間の進化の過程は学びの積み重ねの中にあると思います。いかなる小さな学習でもそれは意識の深層にある経験の記録庫に蓄積され、いつかは気づきをもたらすでしょう。しかし、なぜか心は自身自身を制御するのを拒み、新しい進歩的な習慣に対して無数の口実を作り出し、逃げる傾向があるようです。そのままでは、アダムスキー氏が述べているように、心は古い習慣から逃れられなくなり、心が自身を制御するためには、一定の学習の仕方をも身につける必要があるようです。

本論では学びのプロセスと題して思いつくままに日頃感じていることを述べてみました。

②真似ること

「学ぶ」ということとは、「まねぶ」が語源であると言われます。全ての学習は手本を見習うことから始まります。

この語源が示唆しているように、我々は手本に近づこうとするならば見習った事をまず真似ようとしします。

真似ることは相手（人、物、自然界）を理解する力を養います。なぜなら自分を忘れ、相手の状態を感じる過程を経るからです。真似ることをオリジナリティが無いと非難する心は進歩を遠ざけます。なぜなら感受できるはずの印象を無視するからです。たとえば楽器の練習をするとき、心が騒ぎ、先生の動作を記憶しないうちに、自己流に没頭すると上達が遅いようです。

芭蕉の言葉で、次のようなことがあります。

「格に入り、格を出でざるは時は狭く、又格に入らざる時は邪路に走る。」

格に入り、格を出でてはじめて自在を得べし。」

ここで言う格とは、手本から学ぶ基礎のことです。

真似ることは、イメージ空間に手本を再現することから始まります。手本から得た印象は何度も想起し、実際に動作することにより、細胞はこの印象を記憶し、自分自身が発する印象を手本に似せてきます。

③究めること

学んだことをもとにして、深く理解し、さらに進歩させようとするならば究めなければなりません。これを研究といえます。研究は自分からの学びです。なぜならこの場合の手本は自分にあり、内部の英知と対面するからです。

いくら外を見回しても答えは見つかりません。問題の答えはいつも自分が持っていると思えることが大切です。

再び芭蕉の言葉を紹介しましょう。

「古人の跡を求めず、古人の求めたる所を求めよ」

知識欲が旺盛な人は結構なことですが、どこもなく貧乏な印象があり、物知り博士になってもなかなか自分を变えることはできないようです。一方、どこの教科書に書かれていないことを追求する人の姿は外見は愚かしく見える場合もありますが、これを持続する人は、落着きを備え、何か新しいものを産み出すのではないかという期待感を漂わせるようになります。持続する人の発する場は、安定感

があり、周囲の人はこれに感応して集まってくるようです。

④続けること

いかなる些細なテーマであっても十年も探求すれば、内部の英知とともにいることに気付きはじめるでしょう。

ここでちょっと私の経験を紹介します。私はフリーエネルギーに関心を持って一五年が経過しています。当初は物理学を知らずに、空想と思いこみの世界に没入していました。実験も失敗ばかりでした。しかし、実験のたびに、なぜ失敗するかということを考えるうちに、原因と結果の法則の理解が深まり、イメージの中で実験を精密に再現できるようになりました。

ここでいう原因と結果の法則とは自然科学の法則のことではなく、イメージの世界と現実の世界の関連のことです。

いかなる実験でも手当たり次第に取り組んでいると、進歩がありません。イメージの中で実験装置を組み立て、材料の質感、温度、色、ネジの反射光の輝き、切断面のキズなどが、鮮明に伝わってくるようになるまで、何度も描くようにしています。これは心と、潜在意識の共同作業です。潜在意識がコンピュータなら心はオペレータと言ったところで、このあと、イメージの中で、実験を行います。このとき、少しでも不安な箇所があれば、きつとそこには不備があるのです。心を静かにし、気長に回答を待ちます。そして修正を加え、再実験します。

以上の作業が終了してはじめて本物の部品を集めはじめるとすると、きわめて効率的です。ほしい部品が手に入りやすかったり、装置の作りなおしということがほとんどありません。

このような研究活動は、自然科学をより深く精密に理解できるようになったばかりでなく、自分の内部にある潜在意識を信頼し、作業を潜在意識に少しづつまかせられるようになってきました。また、なによりもよかったのは多くの人の出会いがあり、勉強になっていくということです。

イメージの世界で完全なものを作った後に、実際のものを作る。このプロセスは、意外かも知れませんがメーカーで応用されています。納期に追われ、効率化が叫ばれているところは特にそうです。なかでもソフトウェアの開発は、手法が全国的に統一され、手順の標準マニュアルが作られています。それが、なぜカープー理論によく似ているのです。

もし、我々が辛抱できずに別の目標に移ってしまったならば、再び手本の見習いからはじめなければならぬでしょう。これは大きなロスです。

⑤伝えること

研究の成果を活かし、役立てることは学びの仕上げです。ここに文化・文明の出発点があります。

自分の手本となり、見せ、教え、伝える、これを教育といえます。これによって一つの学びのプロセス、一つの進化が

完了します。

進歩する者とこれから学ぶ者が出会い、コミュニケーションする場を教室といえます。

手本となる者はすでに目的地に行き、答を携えてくる方法を知っている故に、見習う者は信頼と確信と探求心をもって進むことができます。学びのプロセスを全うした人は実際に人を引きつける力を持つているようです。

⑥超能力開発

学びのプロセスの初期の過程で、感受性能力（テレパシー）が芽生え、仕上げる過程で、念力性能力が養われます。テレパシーは受動的、念力は能動的能力であるからです。一連のプロセスを通してバランスのとれた能力が開発されます。熟練した技能職の人や教育職の人に超能力者が多いと感じるのは私だけでしょうか。

能力開発はそのためだけにトレーニングするよりも、あるテーマに沿った学びのプロセスを通じて自然に開発する方が楽しく効率的に行えるかも知れません。

毎日ゼナークードでトレーニングするのも一つの方法ですが、実践編のトレーニング方法もあわせて行うとより早く成果が上がるのではないのでしょうか。実践編のトレーニングは、日常生活の中で飽きない方法、必要に迫られて行う方法がよいでしょう。

たとえば、私は、研究テーマのことで得たインスピレーションをいつも記録す

る習慣を持ちたり、伝えたいことを絵に描いて相手に説明してあげるようにしています。これらの習慣は、やってきた印象を具体的にとらえたり、イメージ力を育てるのに役だっています。

⑦原因と結果の法則について

これまでの経験を通じて気付いたことは、イメージが現実になるには、臨場感のあるイメージを描くことが必要であるということと、イメージに臨場感が出やすいのはなぜでしょうか。もしかすると知らないうちに我々は「心配」という宗教の信者になっているのかも知れません。

イメージに臨場感が湧いたとき、肉体は現実と同じ生体反応を示すことが知られています。脳はイメージ（原因）と現実（結果）を区別していません。これを区別しているのは我々の心です。感覚器官を通して得た記憶とそうでない記憶に分類しているのです。だから我々はイメージの世界に住んでいることをなかなか自覚できないでいるのかも知れません。

超能力者はこの分類の壁をある程度取り外しており、イメージの中の感覚器官を実際に使いこなすことを知っているようです。

よく考えてみれば、我々は目で外の世界を見ていますが、眼球が自分なのではなく、どこか別のところにある意識が眼球という窓を通して外（結果）を見ているのです。そして後ろを振り返れば広大なイメージ（原因）の世界が控えています。

す。

原因と結果の法則を抽象的に表現するならば、「原因の世界の中の一点が結果の世界であり、そこが現在である。結果の世界は原因の世界の中で、海の中に生じた渦のように変化しながら永遠の旅をしている。」と言ってもいいかもしれません。

結果の世界はコミュニケーションの場でもあると思います。進化のレベルが違う生命同士が、原子という共通の表現経路を通して、触れあう事ができるからです。

このことは⑤節で述べたことにも関連します。我々が鉱石や植物の印象を感受しようとしていたり、異星人との交流を夢見ているのも、共通の原子で構成されているからこそ可能なのでしょう。

本節では、簡単のためイメージの世界と原因に同じ意味あいをもたせましたが、実際は原因の世界は人間のイメージ力ではとても追従できないほどの無限の深みをたたえているようです。どのくらいの深度まで認識できるかは我々の進化のレベルに対応しているのではないのでしょうか。

⑧私の信条

人の寿命は数十年足らずですが、この短い間でも宇宙の英知に気付かない道理はありません。生命は必ず進化するようにできているからです。たった十年を辛抱できずにこのチャンスを見のがしているとしたらこんなもったいないことはありません。

りません。

私は地球という教室で学べる事をうれしく思います。生涯変わらないテーマを貫き、焦らず、英知に近づこうとするならば、意識は必ず応えてくれると考え、日々を過ごしたいと思います。



日本GAP横浜支部

透視実験

近年、超能力はもはや特別な能力ではなく、人間に備わった未知の能力であることがマスコミ等でとりあげられるようになりました。

多くの超能力少年少女が以前から出現しては大人たちの概念で有りえない事とされてきましたが、それでも次々と現われる超能力現象に対して、もはや否定しきれない状況となりつつあります。

もしかしたら、人間が本来持つ基本的な能力であり、これからの社会で多くの

5年2月22日

実験記録表

氏名 外野浩司 (年 月 日生)

	半日 幽斥 日寺 門間	読み取った図形	サンプル	
1	スタート 終了 ()			
2	スタート 終了 ()			
3	スタート 終了 ()			
4	スタート 終了 ()			
5	スタート 終了 ()			

問題を解決する要素になるかもしれないという期待感も生まれつつあります。

TBSテレビで数年に渡りスペシャル番組で年に一、二回放送されています。「子供たちが秘める驚異の可能性を追う」としての未知能力実験は、子供たちが短期の練習で驚異的な透視能力や念力を現わす内容でした。

子供たちの集団の中で透視実験が始ま

ります。三センチ四方の紙に数や文字、図形など、あらゆる考えられるものがそれぞれ書きこまれ、それはまるめられます。それを手に握ったり耳に入れたりして透視します。

しかし、最初はなかなか良い結果がでてきません。何度やっても同じでしたが、その集団の中に透視能力をいつも発揮できる少女が登場して、他の子供たちの前

で透視を見事成功させました。するとどうでしょうか。他の子供たちも次々と透視して当てていくではありませんか。

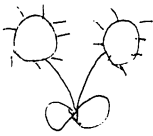
子供たちはできないという壁をその少女の透視実験の結果を目の当たりにして自分にも出来るという高まりに変えていきました。これを「誘発」といいます。

「誘発」については多くの社会現象の中で時代の変り目などで見られます。人

読み取った図形	サンプル
	

図形正解ですが、色がサンプルは茶色で読み取った図形は緑色

S・Iさんが研修旅行で当てた図形。左は赤で右は水色

	
---	---

Y・Iさんが読み取った同じパターン
の図形。色は共にピンクで正解。他の図形でも似た図形と色正解が多く見られました。

M・Aさんが当てた色正解と同じパターンを含む図形

	
---	---

S・Kさんの同じパターンの図形

H・Iさんが連続して同じパターンの図形を書いた例。サンプル図形上は黄色のため形がでていませんが、+図形でした。

は出来るかと確信したときに大きく前進することはこれまでの歴史が証明しています。そして、これからの未来も今では信じられない可能性を秘めています。
このテレビ番組から、横浜支部でもこの実験をとりいれない手はないと考えました。そして、三年間に渡り、月例会のテレビ番組練習の時間で時々実施してきました。又、二泊三日の研修旅行の際にはまとめて実施しました。

この透視実験に参加協力していただいた人数は三〇名となります。
透視実験の方法は先にTBSで放送されたように、表を作り、透視した図形を左に書き、その答えであるサンプル図形を右に張りつけるようにしました。
この実験に先だって、十色ボールペンを多数用意してサンプルも事前に準備しました。
今回行った実験対象数は三九二です。

透視実験による図形と色が共に正解はありませんでした。
図形正解は二でした。
色正解は四二です。
図形の一部又は全体の形が明らかに正解である近似正解は三四となります。そのうち色の正解が六ありました。
傾向としては、色正解と近似正解共に一部の人にかたよって多く見られます。又近似正解が続けて出ることがあります

た。
テレビ番組練習は楽しくリラックスして行なうと良い結果を得ることができると言われています。今回の実験は現在進行中の流れに乗じたりリアルタイムな感覚で行なえたような気がしています。そのため自分にも必ず出来るのではないかという思いが湧いてきました。これ程の確率を現わすことができたことを自信にして今後も続けていきたいと思えます。

第1回・横浜支部大会 (3月20日)

★国際都市・港ヨコハマに宇宙の声を響かせよう!

横浜支部発足以来、潮を持して機会をうかがっておりましたが、ついに第1回大会を開催することになりました。エキゾチックな美しい「港の見える丘公園」の「ポートヒル横浜」に久保田先生をお迎えして大講演をお聞きし、夜は同会場で港の黄金の夜景を眺めながら楽しい立食パーティーを開きます。翌日は市内観光を実施。日本一の超高層ビル「ランドマークタワー」(236m)の展望台に昇ってUFOを観測。山下公園その他を周遊し、横浜の2日間を満喫します。ロマンティックなハマの忘れえぬ思い出を残そうではありませんか。多数ご来場下さい。支部会員一同あたたかくお迎えします。

支部代表 清水 正

●日 時 1994年3月20日(2連休の初日) 1:00—5:00

●会 場 市内・港の見える丘公園内「ポートヒル横浜」(総合結婚式場)
交通=東京駅からは京浜東北線「石川町駅」下車。徒歩15分。タクシー5分。JR桜木町駅前から①保土ヶ谷駅東口行きバス、または②山手駅行きバスで「港の見える丘公園」バス停で下車。すぐ前の建物。

●会 費 ￥2000 (全員記念写真代￥1000は別途)

●夕食会 同会場の宴会室にて立食形式で6:00—8:00まで開催。

●会 費 ￥6500

●宿 舎 ホテル「セントラルイン横浜」

中区伊勢佐木町4丁目117番地

☎045-251-1010 (代)

●宿泊料 シングル ￥7900 (税込)

朝食付 ￥9250

※夕食会後の二次会はホテルの近くの伊勢佐木町に予定、宿泊者には便利。

●申 込 夕食会、ホテル、観光参加希望者は3月10日までに下記へガキでお申し込み下さい。

〒171 東京都豊島区西池袋

3-8-17

清水 正

☎03-5951-3518

— プログラム —

司会 元井武士

1:05 支部代表挨拶 清水 正

1:15 会員講演「学びのプロセス」杉山敏樹

2:00 一休憩

2:10 講演「宇宙哲学で奇跡を起こす方法」久保田八郎先生

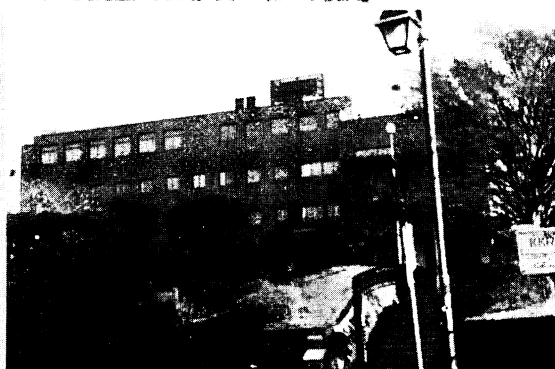
3:40 全員記念撮影・休憩

4:05 質疑応答

5:00 閉会

▼横浜港にかかるベイブリッジ

▼大会と夕食会の会場「ポートヒル横浜」



ティカールの UFO

昨年の夏に行なわれた、中米マヤ遺跡宇宙ロードの旅に参加した私は、旅行前に久保田先生にこの旅行でUFOが出現するところなどのあたりか聞いていました。その話によると、ティカールあたりで出現があるのではないかということでした。

この旅行でのハイライトでもあるティカールでのUFO出現の期待感はありませんでしたが、それほど強くUFOを意識したわけでもありません。それというのも、GAPの旅行ではいつUFOが出現するかわかりませんし、毎日がUFO観測会のように、上空のスペース・ビープルと意識的に近くなっているからです。

ティカール見学はジャングルの中に点在する遺跡を歩いて回るコースでした。各国からの見学者がいますが、日本の観光地に見られるような大勢の人でごった返すこともなく、又、危険な所を柵で囲う所でもありません。自分の責任で危険を回避して、ジャングルのつたや、土に現われた木々の根につかまりながら、発見そのままのオリジナル遺跡の神殿を目ざして登って行く場所すらありました。登頂した時は大汗を流したことも忘れてさわやかな気持ちになりました。

見学も後半となってティカールの遺跡の中でも最大規模の四号神殿に登りまし

た。ここははしが掛かってあり、登る人と降る人が交互に譲り合っていかなければなりません。最後の垂直のはしごは待ってしまおうとだいたい待たなければなりませんので、遠慮せずに前の人について登って行きました。

頂上に着いて、なるほどここが一番高いと思いました。大勢の人が思い思いに座りこんで回りのジャングルから突き出た神殿の風景を眺めています。



私は日本人の旅行者につきものの時間が気になってゆつくりできませんでしたが、しかし、写真はしっかり撮ろうということで、回りの風景を写真に納めました。私はカメラを二台持っていました。一台は気軽に一緒に参加した人の写真を記念に撮ろうとするものと、もう一台はスライド専用として、後に横浜支部の月例セミナーでスライド上映をと思って使いました。三五ミリレンズで何枚か撮り、一三五ミリに変えて三枚程撮りました。

確かにこの旅行でのティカールはハイライトでした。遺跡の大きさもさることながら、横浜月例会でのスライド上映でUFOが写っていることがわかったからです。今回支部報の表紙を飾ることとなりましたが、奇しくも久保田先生がおっしゃられた予言が適中した形となりました。良かったです。

このたびの旅行ではティカールの前日にも湖畔のホテルで深夜にUFOを目撃する機会に恵まれて大変実り多い思い出深い旅となりました。

編集後記

★あれよあれよという間に創刊号から三年の月日が流れてしまいました。なんと二号を発行するまでの長かったことか。しかし、あつという間に過ぎていったように思います。横浜支部としても早いもので六年となります。長く御支援いただいております皆様は改めまして感謝申し上げます。

★今回の内容は超能力について身近になるものとなったと思います。GAPを通して超能力の実在を実感できるものとする。これは本当に素晴らしい体験ですね。

★昨年は私にとりまして、久しぶりにGAPの旅行に参加できまして、これが目標となり、そして参加したことによって充実した年となりました。ONENESS S二号の発行にもはずみとなりました。何か良いことを目標に決めて行動を起こすと、それにとってもなっておとずれる実りは大きいようです。

★念願の横浜支部大会が三月二〇日に行なわれます。皆様ふるって御参加下さい。お待ちしております。

★火星についても少し詳しく知りたい方はレポートがあります。問合せ下さい。

日本GAP横浜支部報
ONENESS 二号

編集発行人 清水 正

発行所 日本GAP横浜支部

〒一七一 東京都豊島区西池袋

三十八ー一七

☎03ー5951ー3518

一九九四年一月三〇日発行